

## 2009 年度 景観・デザイン委員会 第 2 回親委員会

---

### 議 事 要 旨

日時：2009 年 12 月 12 日（土） 12:10～12:50

会場：九州産業大学 1 号館（文系学部棟）7 階 中会議室

出席者（敬称略）：

< 委員 > 田村委員長、天野委員、江川委員、屋代委員、吉川委員、平野委員、関委員

< 幹事 > 佐々木幹事長、丹羽幹事、中井幹事、二井幹事、沖田幹事、福井幹事、宮下幹事

< オブザーバー > 重山先生

議題：

1 景観・デザイン研究編集小委員会 次年度体制について

2 土木学会各賞の推薦候補選考について

3 その他

資料：

資料 - 1 景観・デザイン研究編集小委員会 次年度体制について

資料 - 2 土木学会各賞の推薦候補選考について

資料 - 3 デザイン賞小委員会活動報告

資料 - 4 デザイン教育ワークショップ活動報告

資料 - 5 第 1 回・第 2 回幹事会 議事録

回覧：推薦候補論文

1 景観・デザイン研究編集小委員会 次年度体制について

- ・資料 - 1 の通り、次年度体制について承認された。
- ・2011 年度以降、土木学会論文集 D1 編集小委員会は景観・デザイン委員会に移管される方針で検討されている。

2 土木学会各賞の推薦候補選考について

- ・資料 - 2 の通り、景観・デザイン委員会より推薦することとした。
- ・論文賞については、景観・デザイン委員会として推薦することを踏まえ、戦略的に「デザイン・作品部門」からいい内容のもので、比較的若い人が書いているものを選んだものである。

3 その他

< デザイン賞 10 周年に向けた検討会議報告 >

- ・12 月 11 日（金）夜に歴代委員長・主査との会議を開催した。
- ・過去の資料及び記録を一元化すること、歴代委員長らが過去の選考や評価について振り返る座談会を行うこと、これまでの受賞作品を対象としたフォトコンテストを開催することとした。
- ・予算の確保、写真作品の活用方法が課題となる。
- ・フォトコンテストは、構造物単体の写真だけでなく、人が集まり、使われている風景が応募さ

れることを期待したい。土木の PR となるとともに、受賞作品の事後評価の機会ともなる。

<デザイン賞選考小委員会より活動報告>

- ・現地審査をいい時期に行うためにスケジュールを前倒ししたが、ほぼ例年通りの応募を受けることができた。
- ・来年度は協賛金の確保が難航すると考えられる。

<デザイン教育ワークショップより活動報告>

- ・登録者は先生、学生、高校教師など、多岐にわたるが、今のところ実務者は少ない状況。
- ・現在はオンラインで実施しているため、「いつまで」というものがなく、だらだらと続くことになることが懸念される。
- ・景観・デザイン委員会立ち上げ当時は他に活動がなく、ワークショップは重要な意味を持っていたが、発表会・論文集・デザイン賞が軌道に乗っている今、すでに役割を果たしたのではないか。
- ・ワークショップとしては一旦閉じて、新たな企画があれば改めて立ち上げればよいと考える。
- ・e-learning における著作権の壁はほぼ完璧にクリアしており、CD や DVD として販売することも考えられる。
- ・CD や DVD として、一般的に使うとなると教育としては一方通行になってしまい課題が残るが、教師向けとしての活用可能性もあるのではないか。
- ・本ワークショップは景観・デザイン委員会の名前で活動しているが、予算を使っているわけでもなく、成果は重山先生の著作物であることを明確にしておく必要がある。

<その他>

- ・活動評価について学会に問い合わせたが、景観政策に関する提言の実施も含めての B 評価とのことであった。
- ・1月24日に恵那市で開催するワークショップについて、土木学会も主催とすることとした。
- ・シンポジウム等の動員人数については、累計500人を超えると評価の対象となるので、可能であれば関係のある会に「主催・共催」として入るよう、各委員で取り組まれたい。(共催：半数としてカウント、後援：カウントされない)

以 上